

## A 保健所管内における保健協力員活動の活性化に関する研究

千葉敦子<sup>1)</sup>、大西基喜<sup>1)</sup>、石田賢哉<sup>1)</sup>、メリッサ小笠原<sup>1)</sup>、宮川隆美<sup>2)</sup>、  
木村美穂子<sup>2)</sup>、水木希<sup>2)</sup>、澤谷悦子<sup>3)</sup>、梅庭牧子<sup>3)</sup>、奥村智子<sup>4)</sup>

1) 青森県立保健大学、2) 東地方保健所、  
3) 青森県国民健康保険団体連合会、4) 青森県健康福祉部

Key Words ①保健協力員 ②活動活性化 ③現状分析

### I. はじめに

青森県は平均寿命が全国で最も低いことから、県では県民のヘルスリテラシー向上を図るための対策を推進することを目標に掲げ、短命県返上へ向けて活動を行っているところである。近年は、長野県の長寿の一因は保健補導員にあるのではないかとの指摘があり、県民のヘルスリテラシー及び健康増進の向上に寄与するとされる保健協力員の活動が注目されてきている。

保健協力員は、地域によって名称が異なり、保健補導員や保健推進員等と呼ばれているものの、いずれも市町村長の委嘱を受けて行う地域の住民組織であり、本県では現在約 6,000 人が活動している。しかし、保健協力員は担い手不足による固定化と高齢化が課題となっており、主体的に活動しているとは言い難い現状が指摘されていることから、活動を活性化する方策が求められているところである。

### II. 目的

保健協力員活動の活性化策を検討するために、活動の担い手である保健協力員、受け手である地域住民、育成の立場である市町村担当者の 3 者を対象に調査を行い、現状と課題を多面的、総合的に明らかにすることを目的とした。

### III. 研究方法

#### 1. 東地方保健所管内の全保健協力員に対するアンケート調査

【対象】東地方保健所管内の 5 市町村の全保健協力員 294 人

【方法】無記名自記式質問紙調査法

【調査内容】1) 属性および背景に関する項目、2) 主体化評価指標にする 39 項目

【分析方法】市町村ごとに集計および分析を行った。主体化評価指標は、総合得点と 5 つの下位尺度の得点を市町村ごとに算出し、比較検討した。また、主体化評価得点と個人変数との関連をみた。

#### 2. 市町村の地域住民に対するインタビュー調査

【対象】東地方保健所管内の 5 市町村の地域住民それぞれ 5~7 人程度

【方法】半構造化フォーカスグループインタビュー

【調査内容】保健協力員の認知度、活用状況、健康への影響等についてとし、途中で対象市町村の保健協力員の数と活動事例を示し、それに関しての見聞きの状況や意見等について尋ねた。

【分析方法】インタビュー内容から、認知度、活用状況、健康への影響について抽出した。

### 3. 市町村担当者に対する聞き取り調査

【対象】東地方保健所管内の5市町村の保健協力員担当者

【方法】研究者が役場等に出向き1時間程度の聞き取り調査を行った。

【内容】保健協力員に対するビジョン（サポート体制、育成方針、期待する役割等）

【分析】市町村ごとにまとめ、保健協力員アンケート結果、地域住民のインタビュー調査との関連性をみる。

## IV. 結果

### 1. 東地方保健所管内の全保健協力員約300人に対するアンケート調査

配布数は294、回収数は241で回収率は81.9%であった。

回答者の年齢で最も多かったのは60～69歳で、124人（51.9%）であり、次いで50～59歳が53人（22.2%）、70～79歳が50人（20.9%）であった。49歳以下は少数で9人（3.1%）であった。性別では、女性が232人（97.5%）であり、男性は6人（2.5%）であった。職業では、無職が47人（19.7%）、主婦が79人（33.1%）であった。保健協力員の活動経験年数では、最も多いのが1～4年で、101人（42.8%）であった。10年以上継続している人は86人（36.4%）存在した。自分の健康状態では、非常に健康であるが20人（8.4%）、まあまあ健康なほうだが183人（76.6%）で、あわせて8割程度は良好な健康状態を有していた。地域での他の役割については、他にも役割にを担っている人が146人（60.8%）であった。

保健協力員の主体化評価指標の総合得点は、町村間での有意な差は見られなかった。下位尺度は、①組織・地区グループとしての成長、②保健協力員としての成長、③人間関係の広がり、④保健協力員の活動と生活の結びつき、⑤地域志向性の高まりの5つに構成された。主体化評価得点と個人変数との関連については現在分析中である。

### 2. 市町村の地域住民に対するインタビュー調査

市町村の地域住民に対するインタビュー調査は、平成27年12月9日～12月18日の期間で実施した。保健協力員の名前をはじめ聞いていたという人が、平内町で3人、蓬田村で2人であった。また、保健協力員と関わりのある人の数は、浪岡で1人、平内町で2人、蓬田村で1人と対象者の半数に満たなかった。今別町と外ヶ浜町は対象者全員が何らかの関わりを有していた。

保健協力員の役割としては、健診の申し込み用紙を持ってきて、とりまとめをする人という認識の対象者が多く、①地域の課題を「知る」、②地域の人の声を「伝える」、③住民と行政を「つなぐ」、④地域を「うごかす」といった活動の認識はほとんど聞かれなかった。インタビューの詳細については現在分析中である。

### 3. 市町村担当者に対する聞き取り調査

市町村担当者への聞き取り調査は、平成27年10月29日～平成27年11月6日の期間で実施した。結果の概要については紙面の関係上省略する。

## V. 考察

本研究は2年計画の1年目であり、現在は得られたデータについて詳細な分析を実施している途中である。本年度の調査結果を2年目の調査に活かし、最終的には、保健協力員の現状と課題を多面的、総合的に明らかにし、活性化策を検討したいと考えている。